

2022年1月20日

各位

株式会社 リード

アニールレス技術により製品化した樹脂製品の量産開始について

(アニールレスにより低コスト、環境配慮を実現)

弊社エンジニアが、お客様から提案された外装部品デザインの製品化を検討し、共同で図面の製作にあたったアニールレス技術を用いた外装樹脂製品の量産を本日（2022年1月20日）より開始いたしましたので、お知らせ致します。

この外装樹脂製品は、株式会社SUBARU様が発売を開始しておりますWRX S4全車に採用（装着）されて、日本国内だけではなく、北米をはじめとした主要各国にも輸出されます。

尚、アニールレスの技術は、熱処理工程を必要と致しませんので、二酸化炭素(CO2)排出量の削減に寄与し、環境に配慮した工程を実現します。又、モノづくりにおいて、コスト削減と、生産性の向上が図れます。

今後、更に営業展開を強化し、ESG経営に注力して参ります。

以上

※ アニールレスに関する技術的な内容については、下記「アニールレスに関する特許の出願について」（2021年4月2日）をご覧ください。

2021年4月2日

アニールレスに関する特許の出願について

当社は、本日下記内容の特許を出願致しました。

【発明の名称】

「成形体の製造方法および成形体に関するもの」

・自動車用外装樹脂部品の成形品において、アニール処理の省略を実現した成形体と成形体製造方法の発明です。樹脂材料のPP(ポリプロピレン)主材とマスターバッチ(添加剤)の混合物を加熱溶融して射出成型した成形体と成形体を得る成型工程の特許を出願致しました。

【発明の内容】

- ・自動車用外装樹脂部品は、経年や熱による寸法変化が大きくまた外観に影響を及ぼすという問題があります。一方、寸法変化を抑えようとすると、成形品の機械的特性が低下する傾向があります。したがって、成形品の機械的特性の低下を抑えつつ、経年や熱による寸法変化を抑制することが重要になります。
- ・成形品の経年や熱による寸法変化を抑えるためには、アニール処理が有効です。
- ・しかし、樹脂材料PP主材とマスターバッチを混合し射出成型して成形体を得ることで、寸法変化を防ぐためのアニール処理を行わず、寸法変化を抑えることが可能になります。
- ・アニール処理に関わる工程の省略により部品費の削減ができ、価格競争力を高めると同時に、環境に配慮した工程を実現します。
- ・本発明により、寸法変化を抑えつつ成形体の機械的特性の低下を抑制し、要求品質を満足できるものとなっています。

【特許出願番号】

特願 2021-063392